

日本学術会議総合工学委員会
原子力安全に関する分科会（第 24 期・第 12 回）
議事要旨

1. 日時 令和 2 年 6 月 8 日（月） 15:00-17:00
2. 実施方法 Zoom を利用した遠隔会議（ホスト：吉見卓幹事）
開催場所 横浜国立大学 IAS リスク共生社会創造センター
※緊急事態宣言継続のため、リモート開催
Zoom 接続先 URL アクセス URL：
<https://zoom.us/j/92357436330?pwd=Nk1CTjhST3F3N2s3c2xwSU1SMDZaZz09>
ミーティング ID: 923 5743 6330
3. 出席者（敬称略）
大倉典子、上坂充、佐倉統、柴田徳思、関村直人、柘植綾夫（副委員長）、野口和彦（幹事）、松岡猛、森口祐一、山地憲治、矢川元基（委員長）、向殿政男
（欠席）越塚誠一（幹事）、竹田敏一、成合英樹
4. 配布資料
資料 1 前回分科会議事要旨
資料 2-1 原子力連絡小委員会（第24期・第4回）議事要旨
資料 2-2 福島第一原発事故調査に関する小委員会活動報告
資料 3-1 提言案「原子力安全規制の課題とあるべき姿」見え消し版
資料 3-2 提言案「原子力安全規制の課題とあるべき姿」溶け込み版
資料 3-3 提言案「原子力安全規制の課題とあるべき姿」追加指摘事項
資料 3-4 報告「東京電力福島第一原子力発電所事故による環境汚染の調査研究の進展と課題」幹事会査読意見修正版 見え消し版
資料 3-5 同上、幹事会指摘事項への回答
資料 3-6 新知見シンポジウム2020の構想案
資料 3-7 原安全分科会活動リスト
参考資料 Zoom 参加方法（原子力連絡小委員会）
5. 議事
 - 1) 開会宣言
矢川分科会委員長より、原子力安全に関する分科会（第 24 期第 12 回）の開催が宣言された。
 - 2) 分科会 第 24 期第 11 回議事録確認（資料 1）
矢川分科会委員長による経緯説明に基づき、出席者の名前の漢字の修正を行った上で、第 11 回議事録が承認された。

3) 各小委員会の活動報告

①原子力連絡小委員会（資料2）

資料2-1に基づき、山地委員により、検討経緯の説明がなされ、第24期・第4回議事録の内容が確認された。シンポジウムに関しては、後述。

②福島第一原発事故調査に関する小委員会

資料2-2に基づき、松岡委員長より小委員会活動について以下の報告があり、了承された。

- ・昨年5月に出した報告「我が国の原子力発電の津波対策」について国連SDGsとの関連を学会会議HP上で説明する必要があるので、説明文を作成し事務局に提出した。
- ・提言「原子力安全規制の課題とあるべき姿」については公表のための作業がほぼ終了し最終段階に入っている。
- ・シンポジウムに関しては後述

③原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会

森口委員長より、活動報告がなされ了承された。

④研究用原子炉の在り方検討小委員会

上坂委員長により、懇話会の報告がなされた。

4) 議論等

①提言案「原子力安全規制の課題とあるべき姿」について松岡小委員会委員長より報告があった後、資料3-3を用いて関村委員より、追加指摘事項に関する説明があり、用語集の書き換えをすとの報告があった。柘植副委員長からは、幹事会からの質問への対応に対する感謝の意が表明され、矢川委員長より、幹事会とは工学とは何かとの対話が必要であり、提言などは、一般社会にもわかるように記述する工夫が大事との意見があった。

②報告「東京電力福島第一原子力発電所事故による環境汚染の調査研究の進展と課題」について、森口委員より資料③-④に関する説明と資料3-5とその要旨を使用して、幹事会からの質問への回答の報告がなされた。

活動の25期における継続の必要性が指摘され、矢川委員長より二部との連携が大切であるとの意見が出された。柴田委員からも連携の重要性が指摘され、森口委員からは、ヒアリングから始めてはどうかという提案があった。

また、矢川委員長と柴田委員より、英文化の必要性と重要性が指摘された。

③原子力総合シンポジウム

山地委員より、シンポジウムを9月にオンラインで開催を計画していることが報告され、了承された。上坂委員より登壇者で打ち合わせを行い可能な日時を確定する予定であることが報告された。7月の幹事会に申請するもとする。

④新知見シンポジウム

松岡委員より、9月10日の午後に開催予定であることが報告され、了承された。矢川委員長より、登壇者として情報社会学の観点も重要であるとして佐倉委員の推薦があった。7月の幹事会で申請する。

⑤3月11日のシンポジウムに

上坂委員より、3月11日のシンポジウムの開催についての質問があり、内容は来期の体制で決めることとなった。1月の分科会で企画して幹事会に提出する必要があるが、それまでに企画案を検討することとなった。(担当未定)

⑥学術の動向

大倉委員より、学術の動向で原子力に関してシリーズで取り上げているので、9月の「新知見」に関するテーマで取り上げるのはどうかという提案があり、了承された。

松岡委員より11月末原稿締め切りであれば、対応可能であるとの意見が表明された。

⑦原子力関連の大型計画

上坂委員より文科省からヒアリングを受けたが、今回は断念したが、次回は研究炉を含めて提案したいとの報告があった。

5) 閉会

矢川委員長より、今期の活動に関して、委員への謝意が示され、来期もこの活動を継続することが重要である旨の表明がなされ、閉会となった。

以上